

(平成18年度マスターセンター補助事業)

地方都市の中心市街地活性化に関する 調査研究報告書

～ 廃線問題下で崖っ淵のまちなか再生 ～

平成19年1月

社団法人 中小企業診断協会茨城県支部

地方都市の中心市街地活性化に関する 調査研究報告書

～ 廃線問題下で崖っ淵のまちなか再生 ～

ご 挨拶

(社)中小企業診断協会茨城県支部

支部長 安 四 郎

国内景気のトレンドを見ると今回の景気回復は戦後最長となったが、一方では回復感に乏しい回復とも呼ばれている。県内においても、昨年8月に開通したTX沿線の一部では環境が変化し好転の兆しが見えるものの県全体として見れば、他の地方と同様、低い水準での景況感良化であると判断しております。今後も、地域特性を活かした、堅調な景気回復に向けた一層の努力が求められており、その上でも地域に生き抜く、我々中小企業診断士が、地域の課題克服のため、その技能や実践的活動を高めていく事が大変重要であると考えています。

さて、毎年支部にて実施しております「調査研究事業」ですが、本県の研究テーマを、

- ① まちづくり3法の改正・見直しがあった点
- ② 県内商店街及び中心市街地の活性化が進まない
- ③ 県内で赤字地域鉄道の見直しがされている等の理由より、県中央に位置し、古くは国府があり栄え、現在も地方の中心都市でありTMO活動をはじめ積極的にまちなか再生に取り組んでいる「石岡市」を調査研究の地として、取り上げ、
 - (1) 新たな中心市街地活性化の考察
 - (2) 鹿島鉄道の存続に向けての、①取り組む課題、②有効利用策、③沿線地域と連携した街づくりの研究
 - (3) 鉄道と中心市街地活性化のあり方
 - (4) 中小企業診断士としての役割等を検討して参りました。

ところが、調査研究を進める中で、当初は、鹿島鉄道存続の当面の見通しが立ったと思い安心して、「まちなか」や沿線地域に役立つ有効利用や活性化策を検討しておりましたが、一転、本調査研究をまとめる年末に、次の運営会社が決定出来ず、結果廃線という流れになってしまいました。この決定は、支部で様々な活性化策を検討開始した矢先であり、当惑すると同時に、残念でなりません。しかし、廃線が一応平成19年3月末日に決定された以上、急遽、本調査研究事業の取りまとめ方針を変更せざるをえませんでした。その中で本年1月初旬には、再度街なかの取材を実施して、具体策を含めた中心市街地活性化策をまとめあげました。

結論としては、石岡市の中心市街地活性化に向けては、市の特徴である、歴史と文化をどのように、まちなかにぎわいに結びつけるかという観点で、ハード事業（駅前の集客施設の整備）、ソフト事業（まちなか居住とふるさと意識、まちなか回遊と個店・商店街の活性化）の推進を提言いたしました。

石岡市に限らず、県内でも数多く中心市街地活性化問題や廃線問題が存在しております。活性化の決め手は、最後には「人材」であり、その上では、地域に生き抜く我々中小企業診断士が「地域の人材」となれる様、本調査研究事業をスタートとして日々研鑽を重ねていきたいと思っております。

最後になりましたが、本調査に対してご協力頂いた多くの関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。そして、泊まりこみの実務研修会で熱心に活性化のアイデアを出していただいた20名の支部会員診断士の先生方、さらに、事業途中で状況が二転三転する難しい状況の中で本事業をまとめて頂いた調査委員会メンバー、重松道弘委員、川又昭宏委員、山本裕子委員のご尽力に対し感謝申し上げます、その労をねぎらいます。

目次

一	はじめに	2
二	新たな「中心市街地活性化プラン」に向けて	6
	1. 歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり	9
	2. 公共投資を起爆剤に“年中おまつり”のまちづくり	11
	3. なつかしい田舎を持つまちづくり ～まちなかへの回遊を促進させる～	14
	4. 実証と活性化のための具体策	19
	5. 郊外大型店出店や地域間の競争観点から ～新たなまちなか再生と診断士の役割	38
	6. まとめ	45
三	鹿島鉄道廃線問題	47
四	資料編	57